



紫芳会だより ～輝く先輩達～

No.46

2016.6.1.発行

カヌースラローム競技
オリンピック出場選手 **笹本 弘子**氏 (高校40期)

1992年 バルセロナオリンピック 23位

1996年 アトランタオリンピック 17位

立川高校のみなさんこんにちは。高校40期の笹本弘子です。1992年バルセロナオリンピックと1996年アトランタオリンピックにカヌースラローム競技で出場した経験があります。今年はオリンピック開催の年ということで寄稿させていただくことになりました。

小学3年生の夏休みに初心者講習会に参加したことがきっかけでカヌーを始めました。遊びで始めたカヌーでしたが、当時のクラブ会長が「大人に勝つには冬眠はしてられない」と冬の間も迎えに来てくれて練習し続けたおかげで、小学5年生で東京都選手権大会優勝、中学3年生では全日本選手権で優勝しました。

中・高校時代はバレー部に所属し、平日はクラブ活動、土日はカヌーの練習を続けました。全日本選手権で優勝したので、海外の大会に出場する権利は得たものの、当時はオリンピックの正式種目でもなく、海外に行く意味はないと考えて海外遠征は辞退していました。

そんな私に転機が訪れたのは高校3年生の頃。1992年開催のバルセロナオリンピックでカヌースラローム競技が20年ぶりに正式種目となることが決定したのです。

大学進学後には、オリンピック出場枠確保のため、アルバイトで遠征費を捻出してワールドカップを転戦しましたが、国内のコースとの違いに愕然としました。複雑に渦を巻く人工コースや、流れが激しく命の危険を感じるような自然コースで試合が行われており、コースに対応できず結果を残せませんでした。また、海外選手は企業に所属しトレーニングをしているプロがほとんどで、レベルが格段に違いました。

帰国後は、平日の昼間は学校や海外遠征費用捻出のためのアルバイト、夜に練習、土日は練習の日々でした。難コースに対応する工夫をした練習方法やパワーをつけるためにウエイトトレーニングにも励みました。真冬の夜練習では、帽子にツラらが下がるほど寒い日もありましたが、練習に集中していたので苦にならなかったです。

バルセロナオリンピック後には、さらなるレベルアップのために仕事を休職し、数か月間単身でドイツナショナルチームの練習に参加してトレーニングについて学びました。当時、日本ではコーチがいなかったのが大変参考になりました。



アトランタ五輪で熱戦を繰り広げる笹本氏

オリンピックの成績は、バルセロナが23位、アトランタが17位でした。成績には満足していませんが、精一杯全力を尽くしたので後悔はありません。オリンピックに出場したことは勿論ですが、出場までの道のりすべてが貴重な経験であり、私の人生の宝物となっています。

こうして、オリンピック出場への道を切り拓いて来られたのは、進むべき道を広い視野でとらえながら行動し、自由の中に自らを律する精神が高校時代に培われたからだと思っています。

立高生のみなさん、チャレンジ精神を忘れず、自分の進むべき道を歩んでいってください。

スラロームは200m～400mの距離で作られたコースに設置された18～25個のゲートを通り下るタイムを競う。
★ゲートの通過方向は上流から下流(ダウンゲート)だけでなく、下流から上流(アップゲート)もあり、人が立ってられないほどの急流で行われる難易度の高い競技。2020年東京五輪では都立葛西臨海公園の隣接地が会場となる予定。★